

# 知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会  
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100  
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp  
No.92 2011年11月  
会報は皆さんの会費によって作られています。  
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年



## 落ち葉を肥料にしてはダメ？—こうして広がる放射能汚染—

全国のホームセンターで販売された腐葉土から高濃度の放射性セシウムが相次ぎ検出されました。腐葉土には、放射性物質の基準はありませんが、下水道の汚泥を肥料の原料として使用する場合はセシウムが1kg当たり200ベクレル以下と基準を定めていました。県環境管理課によると、腐葉土から1メートル離れた空間放射線量は最大で秋田市の通常レベルの約6倍だったそうです。腐葉土汚染は動画サイトへの市民の投稿で発覚しました。農林水産省は、汚染公表から8日後、ようやく肥料に関する放射性物質濃度の規制値を400ベクレルと発表しました。

その後、佐賀県では農家が購入した落ち葉から、国の暫定規制値の80倍以上となる放射性セシウムを、沖縄県では、群馬県産の腐葉土から、暫定規制値の10倍以上にあたる放射性セシウムを検出しました。落ち葉は、福島第1原発から約100キロ離れた那須塩原のものもあったそうです。

放射能汚染腐葉土は、ホームセンターなどを通して、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、松山市、高松市、静岡市、静岡県焼津市、秋田市、札幌市、仙台市、さいたま市の店舗で販売。ある業者は「震災後に集めた落ち葉がちょうど商品として出回るころで、戦々恐々だった。しかし行政からの指導もないので、出荷を続けた」と証言しているそうです。

## 学校の花壇にも汚染培養土使用

秋田県内の小中学校では、秋田県産腐葉土を使ったプランターの土から、国の基準値の2, 4倍にあたる放射性セシウムが検出。ある中学校では、倉庫内にあった未使用の培養土を調べたところ、1kg当たり規制値の5倍にあたるセシウムが検出されました。県教委の調べでは、栃木県産の腐葉土が搬入されていたのは61校あったということです。



## 【福島県産】新米から放射性セシウムが検出・・・でも出荷OK

福島県の、天栄村、浅川町、いわき市、西郷村で収穫された全62点の一般米の本調査で、20点から放射性セシウムが検出されました。放射性セシウムの検出幅は、国の暫定基準値(500ベクレル)を下回った8.5~42ベクレル。お米は毎日食べます。42ベクレルが微量なのかどうか、意見の分かれるところでしょう。いつか、福島の農家の方が「生活するために仕方なく作物を作っているが、自分の孫には食べさせない」と話していたことを思い出します。



## 日本人でいるのが恥ずかしい！不名誉な『化石賞』受賞

中米パナマで開催中の気候変動枠組み条約の特別作業部会で、各国の環境保護団体でつくる「気候行動ネットワーク」が、地球温暖化対策に前向きな取り組みを見せない国に対して与える「化石賞」を日本に贈りました。受賞理由は、東京電力福島第一原発事故の収束ができていないのに、途上国への原発輸出を温暖化対策の一つとして認めるよう主張した点。「国民に途方もない苦難をもたらした技術を途上国に輸出し、見返りに排出枠を得ようとしている。不適切かつ無責任で、道徳的に誤っている」と厳しく批判されました。



## “感染症急増”の意味すること

9月、茨城県で、10~60代の31人の男女が結核に集団感染していたことがわかりました。西日本では、手足口病が前年同期の2.5倍の広がりを見せています。国立感染症研究所の主任研究官は、「例年の手足口病とは症状がやや異なる」と指摘。さらに、毎年、冬に流行するマイコプラズマ肺炎の患者が今夏急増していたこともわかりました。同研究所に毎週報告される患者数は6月下旬に過去最多となった後、9月に再び更新。現在も昨年より2倍で推移しているそうです。鼻血をだしたり、下痢が続いたりする症状の子を多く診療している千葉県の医師は、「いままでの医学的な見地からは説明がつかないようなことが起きている」と語っています。この医師の勤務する病院は、原発事故現場から200キロ圏内。

チェルノブイリ周辺では今も、免疫力低下により、「チェルノブイリエイズ」と呼ばれる、がん、白血病、心臓病、腎臓病、慢性疲労症候群、肝炎、糖尿病、皮膚炎、膠原病などが医療の現場から多数報告されています。さらに、インフルエンザなどの感染症にかかりやすいことも報告されています。血液の検査をすると、子どもたちの抵抗力が落ちていて、健康な子どもの割合は、ロフコビチ村の場合130人中、わずか2人だそうです。今は、子どもたちの結核も増えてきているといいます。放射能に汚染された環境に長くいたり、汚染された食物を食べ続けた場合、内部被曝によって、徐々に身体の抵抗力は落ちていきます。ロシアの新規結核患者数は91年までは減少傾向にありましたが、それ以後増加に転じ、08年の新規結核患者は欧米先進国の10~20倍、結核患者が多いといわれる日本の4倍にもなっているそうです。



## 北海道電力:MOX 燃料製造延期と再製造について

北電は、シンポジウムのやらせ問題を受けて、泊原発3号機に使用するMOX燃料の製造を延期しましたが、再び製造するときには、道の同意を求めると約束しました。しかし、MOX燃料の製造委託先であるフランス・メロックス社では、「日仏両国政府間の取り決めがあるからMOX燃料の製造が中止になることはない」との見方。北電が計画を断念した場合でも「メロックス社がプルトニウムを買い取ったり、プルトニウムのまま日本に返還したりすることはできない」とし、「MOX燃料に加工して日本に持ち帰るしかない」と強調しています。そうになったら、宙に浮いたMOX燃料、どこに行くの？



## 水性塗料も危ない

水性の塗料と溶剤からの揮発ガスを睡眠中に吸い込むとアレルギーやぜん息に2~4倍かかりやすいという結果を、スウェーデンとアメリカの科学者らが報告しました。プロピレングリコールとグリコールエーテル類を400人の子どもたちの寝室の空気中で測定した結果、これらに曝露した子どもたちはぜん息、鼻づまり、及び湿疹の割合が高かったそうです。

この研究の目的は、家庭内で広く使用されている揮発性有機化合物と呼ばれる化学物質の健康影響を調査すること。心配なのは、使用されている化学物質はガラスクリーナーのような洗剤はもちろん、水性塗料やワニス中で広く使用されているからです。それらは揮発性が低く、ガス放出が少ないので、より健康的な代替であると考えられてきました。家の中の空気中の化合物は、数ヶ月~数年残留するといいます。報告書によれば、子どもの寝室で検出されたレベルは、職場及び実験で報告されている曝露レベルより400倍以上低い値だったそうです。



## 小樽市へ陳情『泊原発の放射能から子どもを守ってください』



小樽市子どもの環境を考える親の会では、9月21日に小樽市議会に対し、3つの陳情をしました。

【陳情】

一、防災対策に「原発事故対策」を入れ、市民に広く周知すること。特に子どもを優先的に避難させる体制を確立すること。防護マスクやヨウ素剤、行動記録用紙の事前配布など。

二、小樽市全域をモニターできるように放射能測定器を全市の小中学校に1台ずつ設置し、日頃から放射能を測定すること。

三、原発事故が起きたら、ただちに子どもたちに安定ヨウ素剤を服用させられるように各家庭に常備させること。以上

結果は、継続審議となりました。文科省は、22日自然災害や凶悪犯罪から児童生徒を守るため校内での対策をたてる」と中央教育審議会に諮問しました。その中で、福島原発事故を踏まえた原子力災害への対策も強調しています。

子どもの命を守ってくださいというあたりまえの要望も簡単に通らないのが小樽市です。

本来、このように危険な原発を稼動する場合は、市民の安全対策をしっかりとしてから稼動すべきです。建物ばかり点検しても絶対安全はありえないのです。

次回(十二月)の議会に向けて、小樽市市民の署名を集めて引き延ばしせず早く対策を取ってくださるよう要望します。

# 特集1 なぜ、福島原発事故で『安定ヨウ素剤』が使用されなかったのか

福島県内の1000人以上の子どもの甲状腺を調べたところ、およそ半数から放射性ヨウ素による放射線が検出されたことが分かりました。殆どの住民は、『安定ヨウ素剤』を飲んでいませんでした。

安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素の大量被曝の前に服用することで、甲状腺に安全なヨウ素がたまり、放射性ヨウ素の取り込みを防ぐ薬です。(他の放射性物質には効果はありません)

福島第1原発周辺自治体に用意してあったはずの安定ヨウ素剤が、適切な時期に適切に使用されなかったのはなぜか。いったい、福島で何が起きていたのか。

災害で道路が寸断、渋滞したらどうするの？保管場所が倒壊したらどうなるの？

**原子力災害対策特別措置法とは**

安定ヨウ素剤は国の指示がでてから住民に配布する。医療関係者の立ち会いのもと、避難時に服用するのが原則

非現実的！医療関係者を探しているうちに被ばくするや～！

## ★今回の事故で『安定ヨウ素剤』は飲むべきだった

8月末、放射線事故医療研究会で、福島原発事故で飛散した放射性ヨウ素の量は、少なくとも4割が安定ヨウ素剤を飲む基準を超えていたと発表。しかし、3月19日には、山下俊一・長崎大教授が県の災害対策本部を訪れ、報道陣に対し「今のレベルならば、ヨウ素剤の投与は不要だ」と話していた。

## ★ 政府がパニック！

### ① 誰が『安定ヨウ素剤』の配布指示を受け取ったか—責任のなすりあい

原子力安全委員会は3月13日に手書きのファックスで**保安院**宛に安定ヨウ素剤の配布を勧めたが、「そのファックスがどうなったのかは分からない。住民は安定ヨウ素剤を飲んだものと思っていた」と回答。管理環境課長によると、**原子力安全委員会**の担当者が、このコピーを**原子力安全・保安院**の担当者に手渡したという。課長は、「その後どのような判断で、どのようになったのかは、我々の知るところではない」と語った。**原子力安全委員会**の緊急技術助言組織のメンバーである医師の鈴木元氏は、「我々のような専門家にとって、一番防御しなくてはいけないのは、小児甲状腺ガンリスクだということは明らかだった。肝心な住民は安定ヨウ素剤を当然飲んでいはずだと思っていた」と述べた。

**原子力安全・保安院**の課長は、同院の職員がこのメモを受け取ったかどうか確認できないとし、「これに関して調査をしている。緊急時対応センターで混乱があり、それが理由で伝わらなかったなら、それは申し訳なく思う。当時は、まずは避難だという考え方でみんな動いていた」と述べた。西山英彦審議官は、「16日朝に20km圏内からの避難者にヨウ素剤を投与するように県に指示した」と説明。しかし、15日昼過ぎには、避難は完了していたため、県は「今更、服用させても効果がないと判断し、実施を見送った」。これに対し、同院は「予防的な措置として投与を決めたが、結果として対象者がいなかった」と釈明した。

福島県の職員は、政府の災害対策本部からの指示を待ち続けたと語った。

**地方自治体の関係者**らは、ヨウ素剤配布以外にも、放射線量の測定システムのデータが開示されなかったことが、放射線量の高い地域への住民避難などにつながった。また、放射線の危険の兆候があったにもかかわらず、当初の避難区域外の住民への政府による避難勧告に数週間かかったことなどを非難。

つまり、政府は、非常事態に直面して、**真っ先にパニックに陥っていたのです**。

### ② 不可解な、突然の『安定ヨウ素剤』の配布基準引き上げ

今回の災害前に作成された**公式の防災マニュアル**によると、1万3000cpm(cpm=1分当たりの放射線計測回数:カウント・パー・ミニット)の水準が示された場合には、シャワーや衣服の着替えの除染および安定ヨウ素剤の配布が必要とされていた。しかし、3月14日には**福島県**はこの基準値を10万cpmに引き上げた。レベルが引き上げられると、1万3000~10万cpmを示した住民には衣服の表面を拭うためにウェットティッシュが配られたが、安定ヨウ素剤は配られなかった。**原子力安全委員会**は基準の引き上げには慎重だったが、**福島県**が新基準を数日間使用した後、同委員会も声明で、「10万cpmは、緊急事態の初期における国際原子力機関(IAEA)のスクリーニング基準に照らして容認できる」とした。この配布基準の突然の変更が、配布遅延につながった可能性も指摘されている。

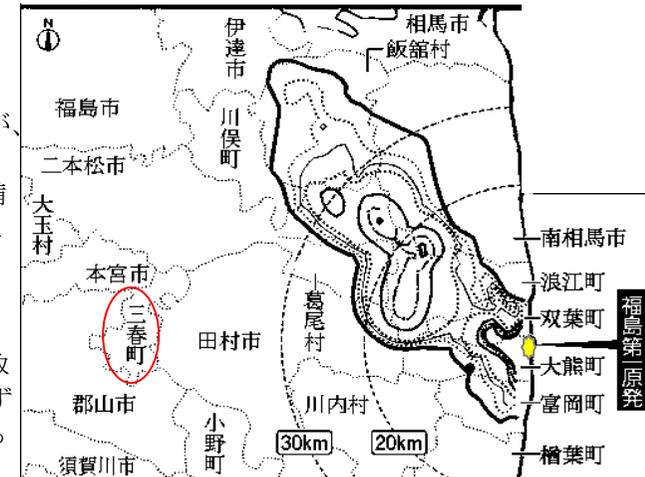
### ③ 住民に国の指示を待たずに『安定ヨウ素剤』を服用させた三春町の決断とは一。

政府は事故から5日目の16日にやっと原発から50キロ範囲内に位置する住民に「安定ヨウ素剤」(以下ヨウ素剤)の配布指示をだした。しかし、その時点では、殆どの住民が避難していたため未使用となった。

ヨウ素剤を備蓄していた双葉町、富岡町、いわき市では自治体独自の判断で住民にヨウ素剤を配布したが、服用の指示はださなかった。(国からの指示をつ)。

原発から約49キロの三春町には、安定ヨウ素剤の備蓄はなく、町長は「安定ヨウ素剤」のことは知らなかったという。三春町には、富岡町や大熊町から一部の住民がヨウ素剤を持って避難してきていた。三春町長は避難してきた町の職員にヨウ素剤のことを教えられ、県の災害対策本部へ連絡し、三春町民の分のヨウ素剤を取りに行き、15日、40歳以下の住民に国の指示を待たずに服用させた。町民は混乱もなく服用できたが、県からは「医師の立会がないと配れない薬だ。回収しろ」と言われた。その時は既に住民は服用したあとだった。さらに、県から「不安、風評をあおる行為だ」と非難されたという。しかし、事故後の放射線量の推移を見れば、安定ヨウ素剤を配って飲ませたことは、決して間違った判断ではなかった。

三春町長は、「住民の安全を守るために、国や県の判断がどうであろうと、町の判断でやるべきことはやらねばならない。配布に迷いはなかった」と話している。



### ④ 考えられる『安定ヨウ素剤』が使用されなかった理由 …

- 1、原子力災害における政府の対策は使いものにならないマニュアルばかりであったということ。  
川内村の井出寿一総務課長は、「そんなものを飲まなければいけないなんて、殆んど誰も知らなかった。16日に役場に届いたときには、もうみんな避難した後だった」と語った。(小樽市内の病院でも安定ヨウ素剤のことは案外知られていない。皆さんも居住地の病院や医院に問い合わせしてみてください)EPZ圏外の住民は勿論、圏内の住民も知識を持たない現実。
- 2、やむなくか故意か服用指示が遅れたため住民は避難していた。
- 3、事故直後、政府が安定ヨウ素剤配布の基準を、突然大幅に引き上げた。
- 4、福島県によると、原発事故後、国や茨城県から18万人分の安定ヨウ素剤の提供を受けた。この他にいわき市が独自に13万人分を備蓄しており、県内全体で計38万人分を確保した。屋内退避指示が30キロ圏内の現状では確保できていたが、50キロ圏内に広がると、80万人分が不足した。広報担当者は「現状では不足が生じているので、国内メーカーに在庫を確認するなど対応を急ぎたい」(3月17日)。この結果、日本全国の薬局から安定ヨウ素剤は集められました。その安定ヨウ素剤は今どこに？

**結論:放射能は、同心円では広がらず、国の予想をはるかに超え飛散し続けた。国民にこの放射能汚染の事実を知らせたくなかったこと、その広がり、『安定ヨウ素剤』が不足になったなど、政府自体の焦りと陰謀?ではないか・・・と思わずにいられない。その一番の被害者は子どもや若者です!**

### ★被ばくしたのは、放射性ヨウ素131だけではなかった

理化学研究所などが3月16日に原発30キロ圏外の大気を分析した結果、放射性物質の7割以上が放射性ヨウ素132や、約3日で放射性ヨウ素132に変わる放射性物質テルル132が高濃度検出されたという。それを3ヶ月近く経ってから新聞が報じたが、すでに30キロ以遠の広い範囲でテルル132が検出されていた。

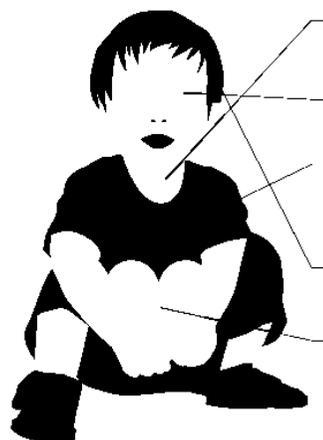
~自主的に『安定ヨウ素剤』の備蓄を決めた自治体~ **注目!**

静岡県・・・【御前崎市】【掛川市】【島田市】【袋井市】【牧之原市】など  
長野県・・・【松本市】【牧之原市】【袋井市】【島田市】【飯山市】など  
内容:「国、県の対応を待たずに今回の状況を見て、備蓄を含め対応を立て直す。原発事故を想定し、被ばくによる住民の甲状腺がんの予防をする。10キロ以内にこだわらず『安定ヨウ素剤』を全市の小中学校などに配備する」などとしています。

## 特集2 放射能による子どもへの影響

### ☆ もう、「原子力の平和利用」のこぼれに騙されない！

チェルノブイリ事故で放射能がヨーロッパに広がり、甲状腺がん、死産、精神疾患が増えました。原発事故が人々にいかに甚大な被害をもたらすか……。



①反復性の呼吸器・消化器疾患、内分泌疾患

②免疫力の低下、白内障、がん、「先天性異常」

③心臓血管系の疾患による胸痛  
(高血圧、低血圧、心電図の異常など)

④脳神経系の疾患、糖尿病

⑤疲れやすい、周囲に対する無関心

⑥加齢の促進

資料・NPO 法人セイピースプロジェクト/低線量内部被ばくから子どもを守るために リーフレットより

子どもの体内に蓄積されるセシウム137が

・体重1kgあたり50Bq になると循環器系、神経系、内分泌系、免疫系、腎臓、肝臓、眼などに病理的变化が現れる。

・体重1kgあたり30Bq を超え、長期的に体内に留まると、深刻な心臓疾患を引き起こす可能性がある。  
(ベラルーシ高濃度汚染地区ゴメリで疫学調査を行なったバンダジェフスカヤによる)

### こどもの甲状腺の内部被ばく45%

市民団体が、福島市内在住の6～16歳の男女10人の尿検査を実施したところ、全員から放射性物質のセシウムが検出されたのは4ヶ月前。内閣府原子力安全委員会の班目春樹委員長は臨時会議後、「十分低い値。健康への影響は疫学的に考えられない」と発表しました。

そして、今回、福島県の子ども約1150人を対象にした甲状腺の内部被ばく検査で、45%で被ばくが確認されました。「すぐに医療措置が必要な値ではない」というものの、低線量の内部被ばくによる放射線と癌の関係を証明することは難しく、長期的に見守る必要があります。また、同じ計測値でも1歳と15歳では甲状腺の放射線への感受性は5倍ほど違うといえます。

国と安全委員会は、「一律に計測値だけでは判断できない」として将来にわたる内部被ばく線量の推計はだしませんでした。計測値を通知しておきながら、健康リスクは評価せず、「生涯、甲状腺の検査を受けて欲しい」というだけでは、納得いきません。

### “チェルノブイリ膀胱炎”

日本バイオアッセイ研究センターの福島昭治先生が、チェルノブイリ事故後、ウクライナの医師と協力して、前立腺肥大手術のときに500例以上の膀胱サンプルを検査したところ、高濃度汚染地区では、尿中に6 Bq/リットルという微量のセシウムが検出されました。これによって、増殖性の膀胱炎が起き、かなりの率で上皮内の癌もできているということが報告されています。

福島、二本松、相馬、いわき各市の女性からは母乳に2～13Bq /kg のセシウム 137 が検出」されており、この濃度は、福島博士らが調査した「チェルノブイリの住民の尿中のセシウム 137 にほぼ匹敵する」。

## 特集3 汚染された食品の対処方法

### ☆ 原則は、子どもにはできる限り汚染の少ない物を与えること

ドイツでは、乳児・子ども・若者に対しては4Bq/kg 以上のセシウムを含む食品は与えないよう推奨。(日本は乳製品をのぞく食品の暫定基準値は500Bq/kg)

セシウム汚染の実態は、汚染が高い順に①肉類②きのこ・ベリー類③ミルク④野菜(特にアブラナ科)とされています。

### 1、放射能を避けるポイント

- ・葉物野菜、山菜類、薬草は避ける。(漢方薬の原料から最大1910Bq のセシウムが検出されました)
- ・水道水……妊娠中、授乳中、小さな子どもは、水道水はお風呂や洗濯などに使うように
- ・生物濃縮による汚染が高い「牛乳」「肉」「魚」を控える

### 2、汚染された食品の調理方法

- ア)汚染乳は、バターやチーズに加工する
- イ)肉や魚は、塩を加えて煮沸すると煮汁に70%のセシウムが残る

### 3、子どもを放射能から守るために食べさせたい食品

- ア)ココア……砂糖は少なめにして毎日飲ませる。(体内の放射能を尿によって排出させる効果)
- イ)りんご・もも・いちご・さくらんぼ・レモン・オレンジ・すもも・胡桃(ペクチンやミネラルが豊富)  
汚染されていないりんごを、一日まるごと2 個くらい食べると良い。(アップルペクチン)  
ペクチンは、消化管の中のセシウムを捕獲し、大便の量を増やして排泄させる効果がある。
- ウ)果肉入りの野菜ジュース・果物ジュース(特に赤い色の物)
- エ)豆のスープ・そば粥・米やオートミールの粥(ヨウ素・カリウム・鉄分を多く含む)
- オ)干しアンズ・干しぶどう・プルーン(ミネラルやペクチンを多く含む)

### 4、悩んでいるあなたへ「放射能被ばくから子どもたちを守る」から

3月11日以降……「私は心配しすぎ？」と悩んでいた方へ

「心配するのが当たり前。放射能には、安全な値はないのだから、最大限注意し、最大限予防対策をとることは、当然なこと」と書かれていました。

汚染地域にいる人は、やはり「遠くへ避難することが一番よい」そうです。それと、一人で悩み過ぎないように「みんなで支えあって、つながっていくことが大切」ですって。



### 「放射能被ばくから子どもたちを守るために」

NPO 法人セイピースプロジェクト編  
松井英介+崎山比早子監  
旬報社 A5 判並製/64 頁  
定価 840 円 発行日 2011 年 8 月 10 日

10月5日 子どもの甲状腺検査の結果 記事  
同じことを取材しても、取材した相手や書き方でこんなに違うということがわかります。

詳しい新聞記事は、  
院長の独り言 <http://onodekita.sblo.jp/>  
記事一覧から 384 号の「福島の子甲状腺機能変化」を参照ください

### 新聞くらべてみれば……



## 鉢呂経済産業相辞任 早すぎた辞任は 原子力村にはめられた？

私たち道民の期待を一身に集めて鉢呂氏は経済産業相に抜擢されました。しかし、「死の街」「放射能」発言であつたという間の辞任となりました。残念なのは本人以上に、私たち反原発を願っていた市民です。そこで、このへんてこな辞任劇を考えてみました。

まず、「死の町」発言は鉢呂氏が始めてではなく、菅内閣の時の細川律夫厚労相も言っています。しかも、それは、本当のことであり、死の街にしたのは政府なのだからその責任を鉢呂氏がきっちり取ってくれたら良かったのです。「放射能」発言では、読売「ほら、放射能」、毎日「つけたぞ」、朝日「つけちゃうぞ」、日経「つけてやろうか」、FNN「分けてやるよ」、産経「うつしてやる」と各社まちまち、すべて伝聞形式です。鉢呂氏は「・・・原発周辺では線量計を持っていた。私は一日で85マイクロシーベルトだった。その数字を記者たちに喋ったのは、はっきり覚えている」。話の途中をカットしたり、鉢呂氏自身記憶が定かでないのに、肝心の直接やり取りをした記者(毎日新聞)が姿を見せない。辞任にまで追い込むのなら、鉢呂氏と直接話した記者との会話を時系列に発表すべきではないのか。

鉢呂氏の脇が甘いことは否めないが、もう少し頑張っほしかった。



### 鉢呂氏辞任記者会見で暴言を吐いた記者は、この人 時事通信記者 鈴木隆義



『田中龍作ジャーナル』から



脱原発派の鉢呂吉雄経産相の辞任会見(9月11日)で大手通信社の記者が、大臣にヤクザ言葉を浴びせた出来事は、現在のメディア事情を象徴する出来事でした。

世論に与える影響力(と自分だけで思い込んでいる)をカサに、辞めていく大臣に対して脅迫まがいの口調で回答を迫る。同業者として恥ずかしかつたし、人間としても許せませんでした。私が彼を一喝する光景はインターネットでたちまち日本中に流れました。

彼の所属する通信社には抗議の電話が殺到し、彼は上司と共に鉢呂前大臣のもとに謝罪に行かざるを得なくなりました。ネット時代でなければ、暴言は問題にされることもなかったでしょう。一国の大臣が自らの出处進退を語る場さえ、記者クラブに支配されているのです。国民が知るべき政策の問題点なども、こうして闇に葬られてきたのでしょうか。

ネットの発達でメディアは新聞・テレビ・通信社のワイヤーだけでなくなくなったのですが、記者クラブは旧態依然で環境の変化に対応できていないようです。彼らが記者会見の主権を持つ限り、フリーランスも彼らのルールに従わなければなりません。

暴言記者を一喝した私に真っ先にクレームをつけてきたのは、記者クラブではなくフリーランスの記者でした。彼はエネルギー問題などの経産省ネタを取材執筆し、生活しています。「田中さんがあんなことをするとフリー全体が締め出しを食う」、彼はさも迷惑そうに語りました。ここに記者クラブ問題の根深さがあります。

陸山会事件の判決が暗示するように、記者クラブの目障りになると思わぬ落とし穴に嵌められます。フリーランスがすべて正しいとは限りません。私なんて間違いだらけです。それでも今、日本が置かれた閉塞状況を打破するには、フリーが頑張るしかありません。

皆様の引き続いてのご支援をお願いするしだいです。

2011年(平成23年)9月30日

田中龍作

## 原発関連 講演会のお知らせ

### 報道写真家 樋口健二 講演会

『被曝と差別』

日時:11月2日(水)18時30分～

会場:自治労会館5階大ホール(北6西7)

講師:樋口健二さん(報道写真家)

参加費:500円

共催:Shut泊、市民自治を創る会、ハンマダン 711-1910

### 全国学校給食フォーラム in 札幌

放射能汚染の現実を見つめて、子どもたちの食の安全を考えよう!

日時:11月6日(日) 開場 13:30～

【昼の部】14:00～17:30

メッセージ=山本太郎さん、

基調講演=崎山比早子さん、天笠啓裕さん

【夜の部】18:00～20:00

山本太郎さんと語ろう!

会場:かでる2.7 札幌市中央区北2条西7丁目

料金: 昼の部:1,000円、夜の部:1,000円、通し券:1,500円

主催:全国学校給食フォーラム in 札幌実行委員会

山田011(621)9167